

|      |
|------|
| 受験番号 |
|      |

2023年度

神戸国際中学校 C選考

国 語

(2023 年 1 月 17 日実施、50 分、100 点満点)

(注意)

- 1 解答用紙と問題冊子の両方に、必ず受験番号を記入してください。
- 2 全ての問題に解答してください。
- 3 解答は全て解答用紙に記入してください。記入方法を誤ると得点にはならないので、十分に注意してください。
- 4 試験終了後、解答用紙と問題冊子の両方を提出してください。

【一】 次の文を読み、あとの問いに答えなさい。解答に字数の指定がある場合は、句読点やかっこなどの記号も字数として数えます。（設問の都合上、原文の表記を一部改めたところがあります。）

一九世紀の終わりに二〇世紀のはじめにかけて、①伝染病が病原菌によって引き起こされることが明らかにされた。伝染病の原因が、病原菌であるということがわかって、すぐに病気を治せるというわけではない。しかし、なぜ病気になるのかわからず、次々に病人が死んでいくのに、打つ手のなかった時代と比べれば、その原因がわかったただけでも、治療への道が開けるのではないかという希望がもてるようになった。（A）、病原菌を殺すことはできなくても、衛生※観念の1発達や生活水準の向上も、伝染病を減らすうえで大きな効果があった。

医学が進歩するにつれて、病気にはXがあり、科学によって理解することができるようであるという考えが浸透していった。病気に対して打つ手がなかったときには、医療とは苦しむ人の面倒を見ることがあり、病人と病気はわかることのできないものであった。医学が発達して、病気の症状を分析するようになると、②病気と病人は切り離される。医学が症状に2注意を向ければ向けるほど、病人は※疎外されていく。

一九二〇～一九三〇年ころのヨーロッパでは、富裕な階層に対しては医師はaソウダン相手であったが、貧しい人々に対しては命令的な立場にあった。医師は医学という後ろ盾によって、病人を選別し、命令する権限をもつようになった。ここに病気、病人、医者という※概念が生まれてきた。

科学はその後大きな成功をおさめ、医学も科学の一部として人々の信用を得るに至った。しかし、科学は答えられる問題にだけの絞って解

析して答えを出す、答えられないものには手をつけないのである。一般の人々に誤解があつて、科学は何にでも答えられると思う傾向があるが、科学が答えられる現象はかぎられている。

医学も③科学であるから、分析可能な症状にのみ医師は目を向けて、病んでいる人を視野の外に追いやってしまう。人間やそれを取り巻く環境は科学ではY困難であるので、医学はそのようなものを排除する傾向を※内在している。

人間が動物であることを考えれば、病気とは本来自分で感じ、自分で判断するものであったはずである。ところが医学の発達につれて、病気は医師という見知らぬ人が判断するものになってしまった。（B）、医師が病気でないといえば、患者本人がどのようなbクツウを感じていようと、その人は病人とは認められないのである。

科学の性質を考えれば、病気かどうかかわからない状態、病気ではあるが何の病気かわからない状態、というものが存在するはずであるが、現在では、医師は④占いの師のように、何の病気か即答することを求められるので、医師にわからない病気は存在しないことになる。

病気には名前がつけられるので、病気であると診断されれば、それなりの病名がつく。病名の問題は、社会保障ともcミツセツな関係をもつ。一人の労働者を病人と認定して病人の受ける権利をあたえるためにも、まず病名が必要である。現行の健康保険制度では、初診のときに病名をつけられなければ保険診療を受けられない。検査をする前から病名をつけるということだけを考えてもこれはおかしい話である。（C）、実体のないものに名前をあたえることは、人々をdナットクさせる強い力をもっている。

※観念…物事に対して持つ考え。

※疎外…のけものにする事。

※概念…ある物事に対して共通している考え方のこと。

※内在…ある物がその中に存在していること。

問1 || aとdのカタカナを漢字に直さない。

問2 (A) (B) (C) に入る語として、適当なものを次のア～エの中からそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。

ア しかし イ また ウ もし エ ところで

問3 (1) (2)を否定の意味の熟語にするとき、「不・無・非・未」の中から適当な漢字をそれぞれ一つずつ選んで書きなさい。

問4 (1)「伝染病が病原菌によって引き起こされることがあきらかにされた」とありますが、その結果の説明として適当なものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 全ての伝染病を治せるようになった。

イ 生活水準が大きく向上した。

ウ 伝染病の治療の可能性が出てきた。

エ 病原菌を殺すことに成功した。

問5 (X)と(Y)に入る適切な語を、本文中からそれぞれ漢字二文字で抜き出さない。

問6 (2)「病氣と病人は切り離される」とありますが、その説明として書かれた次の文章の空欄に合うように適当な語句を(1)は五

字以内、(2)は十五字以内でそれぞれ答えなさい。

(1)によって、患者を病氣の症状で判断・分析できるように  
なると、(2)がなくなるとのこと。

問7 (3)「科学」とありますが、「科学」の特徴を具体的に説明した部分を「( )という特徴。」に繋がる形で本文中から四十二字で抜き出し、最初と最後の五文字を答えなさい。

問8 (4)「占い師のように、何の病氣か即答することを求められる」とありますが、その理由を「誤解」という語を用いて五十文字以内で答えなさい。

(2) 次の文を読み、あとの問いに答えなさい。解答に字数の指定がある場合は、句読点やかっこなどの記号も字数として数えます。(設問の都合上、原文の表記を一部改めたところがあります。)

私はすぐにピアノがきらいだとわかった。そして毎日それを弾かされることが決まるとピアノは、かつてない手ごわい敵になった。

私は母にうったえた。

「なんで、あたしだけなの？ 進はやらなくていいの？」

「男の子はピアノを習わないものなの」

私のかよっていたピアノ教室には、ちゃんと男の子がいた。だが、母にそのことを説明してもむだだった。一つ違いの弟の進は、(1)自分の幸運に気づきもせず、それがいいよ私をむつとさせた。

私は自分のイライラを、まゆの中のかいこのように(X)育てていた。五月の誕生日に進が新品の自転車を買ってもらった時、イライラは最初

の爆発をおこした。私の四月のバースデー・プレゼントは、②あのピアノだ。そして、私の自転車は同じ団地のB棟に住む従妹のお下がりだった。

不公平だ。当時はそんな立派な言葉を知らなかったから、ずるいずるいとわんわんわめいた。両親は怒った。そして、私にピアノの値うちを理解させようと③さんざん骨を折ったが、それはむだな努力だった。ピアノの値段がいくらだろうと、弾けるようになるのがどんなにすばらしいことだろうと、私はかまひやしない。

私はピアノは欲しくなかった。進は一番欲しがっていた自転車を買ってもらった。これはサベツだ。私は、ずっとずっと小さい時から、弟が自分よりいい思いをしないように、気をつけて見はつていたのだ。

「なんて、わがままなんでしょう」

母はなげいた。

「今の自転車がこわれたら、新しいのを買ってやるから」

母より甘い父がとりなした。

「ふうん。じゃ、すぐにこわすわ」

私は言った。本気だった。

両親はとても恐ろしい顔をした。あの顔を私は今でもよく覚えている。

彼らには、私のイライラはY理解できなかったのだ。

ピアノの練習は、いつも母の「見張り」つきだった。団地の狭いLDKのリビングの端にピアノ、キッチン端に流し台がある。母は夕食の支度をしながら、私のピアノを聴いた。タンタタンタンと野菜を刻む音は、私の音階練習よりは、はるかにリズムカルで聞いている気持ちのいいものだった。

「ほら、違う。音がとんだわよ。ラの音を抜かした」

「わかってる！」

「だって、さつきもラを抜かしたのよ。ちゃんと譜面を見てる？」

「見てる。あたしは指が五本しかないのに、どうしてドレミファソラシドは八個あるのよ。このピアノって大きすぎる！」

「ピアノはみんな一緒よ。ちゃんと練習すれば、誰だって出来るの」

ドレミ…ファ…ソ…ラシ…ド。

「そうよ。それでいいの」

私たちは背中を向けあって、しゃべっていた。母は流しやガス台に目を配り、私は④みがきたての歯のような鍵盤をにらんでいる。そして、私の後ろのソファーには、進がしょっちゅうゴロゴロとろがっていたのだ。

「ああ、うるさい」

進は耳からイヤホーンをはずして言った。この時間帯には、進の好きなアニメーションの再放送がある。

「あんた、ジャマよ！ どっか、行っちゃってよ」

私は声をとがらせた。

「なんで、いつも四時半にやるんだよ。今じゃなくなつて、やれるじゃないか」

進はふくれた。私が⑤わざとこの時間をねらって練習するのを彼は知っているのだ。

「ねえ、テレビ、もう一つ買おうよ。キミオくんなんか、ちゃんと二個あるんだよ。ゲーム用にさ」

「残念でした。ピアノ買ったから、うちは赤字なの。お金がないの。そうでしょう？ お母さん」

⑥母はため息をついた。そして、進にテレビを消して外で遊ぶように

命令した。

( 佐藤多佳子 『五月の道しるべ』 )

問1 ―①「自分の幸運」とありますが、どういうことですか。二十五字以内で答えなさい。

問2 ―②「あのピアノ」とありますが、「私」にとってピアノはどのようなものですか。それが分かりやすく表現されている部分を本文中から十字で抜き出しなさい。

問3 

|   |
|---|
| X |
|---|

・

|   |
|---|
| Y |
|---|

に入る適当な言葉を次のア～エの中からそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。

|   |
|---|
| X |
|---|

ア すんなりと

イ ぐらぐらと

ウ ひっそりと

エ がつがつと

|   |
|---|
| Y |
|---|

ア さっぱり

イ あっさり

ウ うっかり

エ ばったり

問4 ―③「さんさん骨を折ったが、それはむだな努力だった」とありますが、これと同じ意味のことわざになるように、「骨折り損の」に続く適当なものを次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア 袋のねずみ

イ やぶから棒

ウ くたびれもうけ

エ いたちごっこ

問5 ―④「みがきたての歯のような鍵盤」とありますが、ここにはある表現技法が使われています。その表現技法として適当なものを次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア 擬人法    イ 直喩    ウ 隠喩    エ 体言止め

問6 ―⑤「わざとこの時間をねらって練習する」とありますが、なぜですか。その理由を五十字以内で答えなさい。

問7 ―⑥「母はため息をついた」とありますが、なぜですか。その理由として最も適当なものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

ア 娘の「私」に加えて、ピアノの良さを息子の「進」にまで伝えられない自分が情けなかったから。

イ 真剣にピアノの練習をしている「私」のすぐ横で好き勝手に遊ぶ「進」のだらしなさに呆れたから。

ウ お金が少なくなってしまう、弟の「進」にゲーム用のテレビを買ってあげられなくて悔しかったから。

エ ピアノを買って娘に習わせている自分の気持ちを「私」に分かってもらえずにうんざりしたから。

問8 本文の表現の特徴として最も適当なものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

ア 「私」の視点で話が進んでおり、ピアノの練習や家族に対する「私」の気持ちが強調されている。

イ ピアノの練習をテーマに、和気あいあいとした仲の良い家族同士の会話が繰り広げられている。

ウ 「私」がピアノの練習をする場面を通して、家族が少しずつ成長していく様子が描かれている。

エ ピアノの練習に真面目に取り組む「私」の様子によって、努力の素晴らしさが表現されている。

三 | の意味・用法が他と異なるものをそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。

①

ア 病院の受付で看護師に名前を呼ばれる。

イ 昔のことが最近のように思い出される。

ウ 悪いことをして先生にひどく叱られる。

エ 気付かずに後ろの人に背中を押される。

②

ア 十時から好きなアニメが始まる。

イ 今日は寒いから厚いコートを着る。

ウ 箱の中から思い出の写真が出てきた。

エ 東京から新神戸まで新幹線で行く。

③

ア ペンと消しゴムを手取る。

イ 仲の良い友達と映画館に行く。

ウ あそこを抜けると海が見える。

エ 今日は国語と算数を勉強する。

④

ア 体が痛くて私は自宅で休んでいる。

イ 通っている学校で授業が行われる。

ウ 帰りに図書館でいつも本を読む。

エ あの彼は高校生で彼女は大学生だ。

四

次の(①) ( ) (④) に入る適当な動物の名前を答えなさい。  
また、動物の名前は漢字でも平仮名でも構いません。

立つ (①) ( ) 跡を濁さず

(②) ( ) の手も借りたい

(③) ( ) の威を借る狐

負け (④) ( ) の遠ぼえ